

日本なしの 熟期促進・ 果実肥大促進に!!

住友ジベレリンペースト

ジベレリン塗布剤
(有効成分：ジベレリン2.7%)

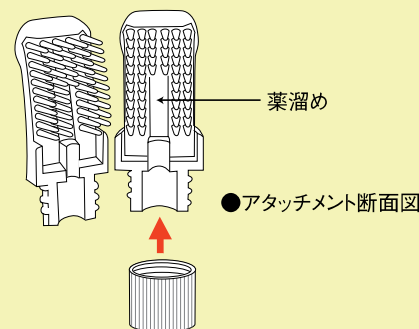
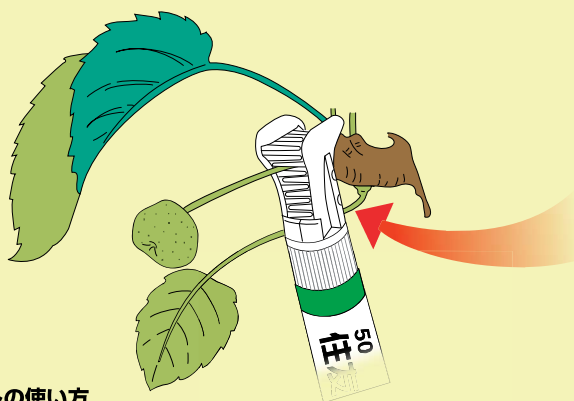
農林水産省登録 第24248号

登録内容(抜粋)

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
日本なし	熟期促進 果実肥大促進	20~30mg/1果	満開30~40日後	1回	果梗部塗布

使用上の注意(抜粋)

- ①果梗部に余分の薬剤を塗布すると、これが高温などによって下部にたれ果面を汚したり薬害の原因となるので、所定量以上に多く付けすぎないように注意してください。
- ②塗布する際、薬剤が果面に付着すると薬害の原因となるので、果面に付着しないように注意して塗布してください。
- ③二十世紀なしにおいてゆず肌の発生が多い樹には使用しないでください。
- ④処理によって熟期が早まるので促進された熟期に応じた収穫の適期に収穫するようにしてください。特に促進された期間よりも早く収穫することのないように注意してください。
- ⑤栽培管理、肥培管理などが不十分な園や異常天候時(異常高温、異常低温など)の使用は十分な効果が得られないことがあるので、そのような場合には使用をさけてください。
- ⑥本剤は植物ホルモ剤であり、微量で植物に影響を与えるので適用作物、使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。



●専用アタッチメントの使い方

専用のポリエチレン樹脂製アタッチメントをチューブの口に付け、アタッチメントの先端から1/3位までチューブの内容物を押し出して満たした状態で、手で支えた梨の幼果の果台に近い果梗部にできるだけまっすぐな方向にアタッチメントを挿入し、引き抜く時は、少しねじりながら引き抜き、ペーストを塗布してください。チューブの内容物がアタッチメントの横の方から過量漏洩した場合は、適当な紙等で拭き取ってください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圖場に放置せず適切に処理してください。

ジベレリンペースト処理が熟期促進・果実肥大促進に及ぼす効果

調査日	処理区	果実重 (g)	果径(mm)		果皮色	糖度 (Brix)	果肉硬度 (lbs)	酸度 (pH)	収穫盛期
			縦径	横径					
8月20日	満開40日後	477.9	83.9	98.1	3.2	12.7	5.2	5.3	8月20日
8月28日	無処理	419.6	80.4	94.2	3.4	13.0	5.2	5.3	8月28日

2005年(H17年)埼玉県農林総合研究センター園芸研究所
品 種: 幸水(13年生) 処 理 量: 20~30mg/1果
試験規模: 1区1樹、3反復 調 査 日: 8月20日、8月28日(30果/1樹を調査)
処 理 日: 5月31日(満開40日後)

- ・果実肥大効果が認められた
- ・収穫日は無処理より8日早かった

調査日	処理区	果実重 (g)	果径(mm)		果皮色	糖度 (Brix)	果肉硬度 (lbs)	変形 (%)
			縦径	横径				
9月5日	満開31日後	383.8 b	79.0 a	91.8 bc	3.7 ab	11.1 ab	5.0 b	7.6
	満開40日後	390.2 ab	78.5 ab	92.6 ab	3.7 ab	10.9 bc	5.2 a	10.3
	無処理	355.1 c	76.3 c	89.4 d	3.4 c	10.7 c	5.2 a	16.2
9月9日	満開31日後	393.8 ab	79.2 a	92.7 ab	3.8 a	11.3 a	4.9 b	11.7
	満開40日後	404.5 a	79.7 a	94.0 a	3.7 ab	11.2 a	4.8 b	9.7
	無処理	363.5 c	77.1 bc	90.6 cd	3.6 b	11.0 bc	4.9 b	15.5

2005年(H17年)鳥取県農林総合研究センター園芸試験場
品 種: ゴールド二十世紀(18年生) 処 理 量: 20~30mg/1果
試験規模: 1区1樹、3反復 調 査 日: 9月5日、9月9日(50果/1樹を調査)
処 理 日: 5月19日(満開31日後)、5月28日(満開40日後) 注)各調査項目の異符号間には、Tukeyの多重検定により5%水準で有意差あり。

- ・果重は無処理に比べて有意に大きい値が認められた
- ・果色は無処理に比べて有意に高く、熟期促進効果が認められた

ジベレリンペースト処理した「幸水」の果実品質の年次変動

調査日	果実重(g)		果皮色		糖度(Brix)		果肉硬度(lbs)	
	処理区	無処理区	処理区	無処理区	処理区	無処理区	処理区	無処理区
1997年	441.0	374.2	2.7	2.4	10.8	11.1	—	—
1998年	415.4	396.7	2.8	2.7	10.8	10.8	4.6	4.6
1999年	457.8	391.3	2.3	2.6	11.1	11.0	4.6	4.3
2000年	432.6	406.5	2.2	2.3	11.4	11.1	4.4	4.3
2001年	470.2	434.3	3.8	2.6	11.2	11.3	5.4	4.8
2002年	412.3	397.3	3.5	3.4	12.4	12.6	5.4	5.1
平均	438.2	400.1	2.9	2.7	11.3	11.3	4.9	4.6
変動係数(%)	5.2	5.0	22.2	14.4	5.3	5.7	9.8	7.4

2002年(H14年)福岡県農業総合試験場
品 種: 幸水(18年生) 処 理 量: 約20~30mg/1果
試験規模: 1区1樹、2~3反復 調 査 日: 処理区は8月5日前後、
処 理 日: 5月中旬前後(満開30~40日後) 無処理区は8月11日前後(30~50果/1樹)

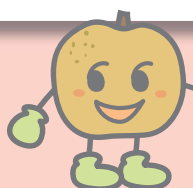
- ・果実重は6年とも無処理に比べて大きく、肥大効果が認められた
- ・果皮色・果肉硬度は年次により変動した

ジベレリンペースト処理が「幸水」の果実品質に及ぼす影響

調査日		処理区	果実重 (g)	果径(mm)		果皮色	地色	糖度 (Brix)	果肉硬度 (lbs)	酸度 (pH)
				縦径	横径					
8月1日	収穫当日	満開36日後	412.3 a	94.6 a	75.3 a	3.5 b	3.4 b	12.4 a	5.4 a	5.25 c
8月6日		無処理	397.3 a	92.8 a	74.4 a	3.4 b	3.5 b	12.6 a	5.1 a	5.39 bc
8月7日	収穫6日後	満開36日後	397.2 a	93.4 a	75.0 a	4.4 a	4.1 a	12.6 a	4.4 b	5.62 a
8月12日		無処理	397.8 a	93.6 a	75.1 a	4.1 a	4.0 ab	13.1 a	4.4 b	5.50 ab

2002年(H14年)福岡県農業総合試験場
品 種: 幸水(23年生) 処 理 量: 約20~30mg/1果
試験規模: 1区1樹、3反復 調 査 日: 処理区は8月1日(収穫当日)、8月7日(収穫6日後)、
処 理 日: 5月9日(満開36日後) 無処理区は8月6日(収穫当日)、8月12日(収穫6日後)

- ・収穫当日・6日後とも処理の有無による果実品質に相違は認められなかった
- 注)Tukeyの多重検定により、異文字間には5%水準で有意差あり。



熟期促進、果実肥大促進の両方に効果があります。

